

保幼小中一貫教育だより ～豊かな自然と豊かな人材で豊かなこどもを育てる～



豊能の風

発行：豊能町教育委員会 第122号 R6. 8. 26

「義務教育学校に向けて『校則（きまり）』についてアイデアを出し合う」 — 西地区小中合同研修会 —

7月31日、西地区の小・中学校の教職員が集まり、合同研修会が行われました。テーマは、「校則」についてです。令和8年4月に開校する義務教育学校の「校則」について、小・中教職員混合のグループに分かれ、意見交流を行いました。



<意見交流の中で出された意見（一部抜粋）>

- ・校則は、みんなが気持ちよく過ごすために必要である。
- ・校則でしぼる必要がない子が増えてきている反面、校則がないと不安に思う子もいる。
- ・校則は、保護者や教職員の意見を踏まえて、児童生徒主体で決めていくことができればいい。
- ・校則は発達段階に応じて考え、1～9年生まで一律にする必要はないのではないか。
- ・近隣の義務教育学校を参考にする必要性がある。

校則は、児童生徒が健全な学校生活を送り、よりよく成長・発達していくために設けられるものです。「とよの西学園（仮称）」の校則は、今後も協議を重ね、策定していきます。

東能勢小中学校 小中合同研修会 開催

7月25日に東能勢小中学校の教職員による小中合同研修会が行われました。はじめに高橋校長から、「2学期に向けて児童生徒が主体的に取り組める“しかけ”を検討し、児童生徒の嬉々とした姿が見られるような取組みをめざしていきましょう。」と話がありました。また、研究担当者からは「共主体（児童生徒の主体性を育みながら教職員の主体性も養い、お互いに成長していくこと）」を意識しながら取組みを進めていくことの呼びかけがありました。

次に、各学年から「とよの未来科～東能勢 Style～」を中心とした1学期の振り返りと今後の取組みの報告後、その内容についての意見交流や地域（とよの）の教材、人材の情報交流が行われました。

小・中学校の教職員と一緒に、全ては児童生徒のために熱心に協議している姿がありました。2学期の取組みが楽しみです。



担当者からの説明を聞く教職員



異学年での交流の様子

とよのを知ろう とよのを学ぼう ① 「キャリア教育」の実践

「異年齢の友だち、地域の方との交流を通じて」（吉川保育所）

吉川保育所は、0歳児から5歳児までの子どもが在籍し、日々の生活の中で自然に異年齢との交流を経験しています。泣いている乳児の頭を「よしよし」と幼児が撫でている姿は、日常によく見られる光景です。

また、近くのシルバー人材センターからのご協力もあり、子どもとの触れ合いや学び合いなど共有する機会があり、貴重な体験をさせていただいています。

吉川保育所の周辺は自然が豊かで、散歩に出ると地域の方から声をかけていただき、花が咲いている場所や虫の名前を教えていただくこともあります。「子どもたちに見せてあげてください。」と後日、写真や資料を保育所に届けてくれる方もいらっしゃいます。そんな出会いの中で「田んぼにあそびにおいで。」と声をかけていただき、田植え前の水を張った田んぼで5歳児が泥あそびを楽しませていただきました。子どもたちを迎えるために持ち主の方が知り合いの方と準備をしてくださったり、保育者が事前にあそび方を聞きに行ったりと、子どもを取り巻くことから大人の交流も深まりました。田んぼの泥の感触、体を洗うために入った用水路を流れる水の冷たさ、入って良い場所といけない場

所があり、ルールを守って安全に遊ぶなど、子どもたちはさまざまな体験をすることができました。真夏には「畑のトマトを収穫においで。」と声をかけてくださる方もいます。

今後も0歳児から5歳児、さまざまな地域の方と「かかわる力」を育てていきたいと思えます。



「これからのPTAのあり方について」意見交流会 開催（8月4日）

全国的なPTAの問題点や豊能町における課題等について、保護者・教職員・学校運営協議会委員で意見交流会を行いました。

はじめに、大和大学の野崎教授より、人口減少の中、地域や学校をとりまく状況やPTAをめぐる状況などをお話いただきました。その後、「PTAのええトコ」「PTAの困ったトコ」「PTAでこんなことできたらエエなあ」など、参加者がQRコードを用いて回答した内容をその場で共有し、グループに分かれて意見交流会を行いました。

参加者からは、「PTAの成り立ちや意義を知ることができて良かった」「他の地域の方とお話が出来て良かった」などの意見がありました。

義務教育学校開校に向けて、PTAのあり方を考えるにあたり、有意義な意見交流会となりました。



野崎教授のお話



意見交流会の様子